

*撮影時のみマスクを外しています。



眼科の機能が大幅に拡充 医療体制も整える

白内障手術をはじめレーザー治療などが可能に

川崎協同病院の眼科では、2021 年 7 月から白内障手術をはじめレーザー治療などがおこなえるようになりました。同年 3 月から眼科外来は川崎協同病院から協同ふじさきクリニックに移設し、4 月からは砂川珠輝眼科科長のもと新たな医療体制を整え、検査・手術機器を新たに導入することで、治療の選択肢を増やし安全性の高い治療を提案できるようになりました。

その代表的な例が白内障の手術です。白内障とは、眼の中のレンズの役割をしている「水晶体」が濁り、視力が低下する病気です。多くは加齢に伴うものですが、アトピー性皮膚炎、ステロイド薬の治療歴、糖尿病、眼外傷後など、若い人でも起こりえます。

白内障が進行すると、急性緑内障発作を合併するケースもあります。手術では濁った水晶体を除去して、人工の眼内レンズに入れ替えることになります。当院では、通常片眼につき 1 泊 2 日で手術をおこないます。

また、緑内障手術も同時におこなうことができます。1 ミリのチタン製チューブを眼内に挿入し、房水の排出

を促進して眼圧を下げます。日本では平成 29 年に保険認可を受けた新しい治療ですが、従来の方法と比較し術後の出血が少なく、同等の眼圧下降効果が期待できると報告されています。極小のため MRI 検査の制限もありません。



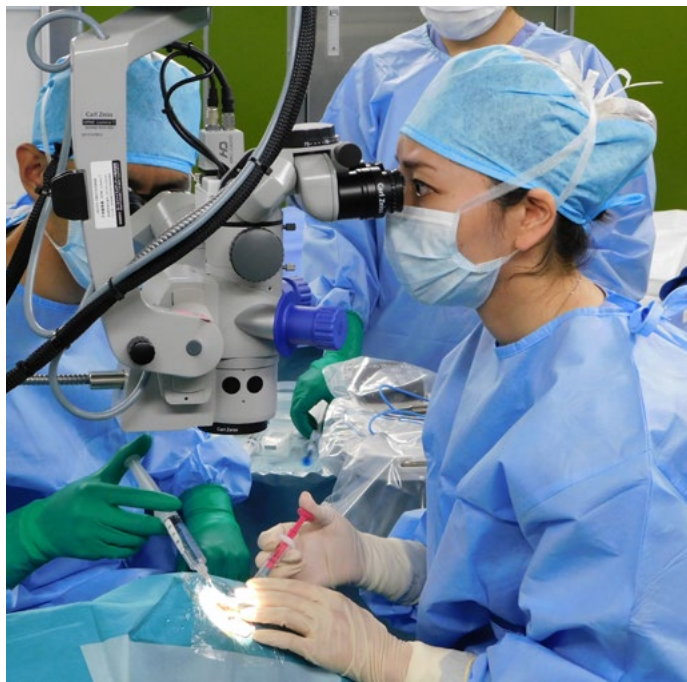
眼科科長 砂川 珠輝

2015 年	鹿児島大学医学部	卒業
2015 年	今給黎総合病院	臨床研修医
2017 年	昭和大学病院付属東病院眼科	助教
2018 年	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院	助教
2020 年	昭和大学江東豊洲病院	眼科 助教

硝子体注射や眼瞼下垂手術も

このほか、硝子体注射も日帰りでおこなえるようになりました。黄斑という網膜の中心にあるモノを見るための最も重要な部分におこる、加齢黄斑変性症や糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、近視性黄斑変性症などによる黄斑浮腫を改善します。

加齢黄斑変性症は加齢などに伴い発症する疾患で、高齢者の失明原因の中でもかなりの割合を占めています。



砂川医師による眼科の手術風景

眼科の機能が大幅に拡充、医療体制も整える

原因となる VEGF（血管内皮細胞増殖因子）を抑制する抗 VEGF 薬を、眼内に注射し治療します。多くの場合は複数回の投与が必要となります。

日帰りでおこなえる手術としては、長年にわたり紫外線を多く浴びた場合に出てくる鼻側から角膜の頂点に向かって三角状の組織が伸びる翼状片の手術や、まぶたの皮膚が加齢によりたるんできた場合、余分な皮膚を切除し皮膚を縫合する眼瞼下垂手術などもあります。さらに外来では、網膜剥離の前段階である網膜裂孔や糖尿病網膜症などに対するレーザー手術もおこなっています。

他科や他院と連携して、安心して受診してもらえる眼科をめざしています。



左から視能訓練士 小川、医師 砂川、看護師 福田

病院機能推進課って どんなトコ？

2021 年 5 月、川崎協同病院に「病院機能推進課」という新しい部署が誕生しました。職員は、常勤が 5 人、非常勤が 10 人、委託が 2 人ですべて事務職員です。仕事の内容はおおまかに分けると次の 3 種類になります。

- 1、医療の記録を適切に管理。退院患者のサマリー（病歴や身体所見などの記録）やさまざまな診療情報を管理する。
- 2、電子カルテのシステム管理。おもに委託職員が業務を担っていて、システムのトラブル対応や新規オーダーの設定などをおこなう。
- 3、医師の事務作業補助。カルテ記載の代行や書類の下書きなど、医師がおこなう事務的な作業のサポートをする。



機能推進課スタッフ

これらの仕事のひとつひとは、それぞれ別の業務に思えますが、この部署の大きな目標は「病院機能」を高め、医療活動を「推進」することです。そのために今後はさらに医療活動の統計や分析を深めて、よりよい医療の提供に活かしていきます。

また電子カルテの運用やハード面の環境改善、医師の補助業務を拡大するなどし、職員の労働軽減をめざします。

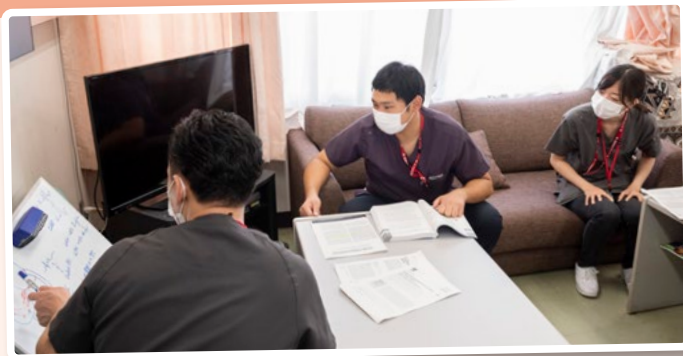
研修医の1日

研修医 山本晴希 愛媛大学 2020 年卒業

川崎協同病院では、今年度 8 人の研修医が指導の医師のもと、日々現場で技術や知識を習得し、医療倫理を学んでいます。こうした研修医の奮闘ぶりを、1 年目研修医の山本晴希医師に語ってもらいました。

出勤・朝勉強会

朝 7 時 30 分頃出勤します。毎日ではありませんが朝のうちにベッドサイドへ行き、カルテを見て診察することになっています。8 時から週 3 回、研修医の自主勉強会があります。曜日ごとに内容は異なりますが、どれも勉強になるので刺激になる時間です。



午前 病棟回診



8 時 45 分からは医局の朝礼があります。当院は総合医局なので、全診療科の医師が集まっての朝礼です。続けて隔離病棟に入院している患者さんの隔離解除の判定が行われます。こちらも全診療科の医師と研修医が参加し、集団で議論をして意思決定をしていきます。

その後、消化器チームで治療方針のカンファレンスをしますが、研修医が患者さんのデータや治療方針についてプレゼンして、それを基に指導医の先生と一緒に治療方針を決定しています。この時プランまで考えてから指導医の先生にプレゼンができるようにしています。

指示通りに動くのではなく、まずは自分で考えることが 3 年目以降、患者さんを診る時に重要なので、初期研修の 2 年間で身につけることができる研修だと思います。消化器内科は、チームで患者さんを診ていて、指導医の先生と一緒に受け持つので、患者さん全員を把握するよう心がけています。

当院では消化器内科に限らず、患者さんの生活背景まで考えることが特徴の一つだと思います。もちろん病気の治療が第一ですが、それにとどまらず実際に家に帰ることができるのが、食事やリハビリで困ったことはないのが、退院後に患者さんを誰が見てくれるのが、など考えることはたくさんあります。自宅環境に問題があるかもしれないときには、実際に患者さんの家に病院の他職種のスタッフと訪問して、生活の場から患者さんをみることもあります。

午後 内視鏡検査・処置

研修医はよほどの決まった仕事がない限りは、内視鏡検査に参加します。研修医なので実際に患者さんには処置をすることはできませんが、指導医の先生から解説をしてもらいながら検査を見るのはとても勉強になります。

指導医の先生の手が空いている時にはシミュレーターで指導してもらっています。いつ実際の患者さんを検査することになってもしっかりとイメージを固めながら取り組んでいます。

業務終了

病院を出るのは、その時に研修をしている診療科によって異なりますが、午後 5 時～7 時くらいです。最初は日々の仕事にいっぱいいっぱいでしたが、徐々に自分で帰宅時間をコントロールできるようになりました。

今はコロナ禍のため仲間と食事に行くことなどは難しいですが、当院の近くには焼肉屋が多いので、終息後には多職種を含めた同期のみんなで食べに行きたいと思っています。



「大師診療所」～新所長・新看護師長で新体制に

～ここが“かわいきょう”の原点～

大師診療所は、毎年初詣に大勢の参拝客でにぎわう川崎大師の門前にあります。一つ通りを挟んだ参道の商店街には、大師名物の葛餅やたんきり飴、だるまといった土産物屋や飲食店がたち並び、初詣の時期ともなると大いに盛り上がりを見せます。

大師診療所は 1951 年 3 月に設立されました。初代所長である故岡田久医師を中心に「医療に貧富の差や民族の差別をしない患者の立場に立ったよい医療」を掲げてスタートしました。その後、1968 年には 55 床を有する”大師病院”となり 1994 年に川崎協同病院新築に伴い病床を同病院に移し、大師病院から再び”大師診療所”としてスタートしました。こうした経緯から大師診療所が川崎医療生協の原点になります。

建物は、3階建てで、1階に外来部門があり、2・3階がデイケアや放射線、物理療法室になっています。診療科は、内科、小児科、整形外科、物理療法、訪問診療があり、加えて介護保険事業であるデイケアを行っています。

職員は、常勤 20 人、非常勤 25 人で、診療所としては充実した体制です。

～訪問診療を拡大、安心して暮らせる地域に～

8月に新たな所長と看護師長が赴任しました。前所長もひきつづき診療にあたり、医師の体制が手厚くなりました。訪問診療の受け入れ枠を2倍に拡大することを目標にいま取り組んでいます。高齢化がよりいっそう進む中で、一人でも多くの方がこの地域で安心して医療を受けることができるようにしています。

～小児科外来体制の充実、発達外来スタート～

新所長は、専門が小児科で、小児科外来を充実させたいと意気込んでいます。大師地域は、子育て世帯も多く、地域のニーズに応じていきます。また発達に不安があるお子さんに対しての専門外来を、8月から月一回土曜の午後開始し、子育てに悩む親御さんの相談にもなっています。



高村所長と鍵屋師長



川崎大師の門前にある大師診療所



～特色のあるデイケアに～

大師診療所は介護保険事業であるデイケア事業（定員35人）も行っています。地域の中にデイサービス、デイケア事業所はたくさんありますが、リハビリの充実や医療機関ならではの特徴を生かし、利用者に喜んでもらえるような特色あるデイケアを目指しています。

～医療は地域の中にある～

これまで診療所では、地域とのつながりを大切にし、地域に向け様々な講演会やサークル（班会）活動を実施してきました。コロナ禍で、地域活動が制限され繋がりが希薄になっていましたが、今後感染状況をみながら活動を再開していきます。

以前行っていたキッズサークルや認知症の人とその家族を対象にした認知症（オレンジ）カフェの再開、オンラインを活用したママさん向けの講演会やサークル活動も開催し、地域にとってなくてはならない診療所になれるようがんばっていきます。

大師診療所

〒210-0816 川崎市川崎区大師町6-8

TEL 044-266-5744

<http://www.daishi-shinnryoujo.org>

